

平成24年12月11日(火)

一般(知事)

早田議員(改革ク)

(問4) 菊池川流域の史跡等の活用について

(1) 肥後古代の森構想の総括と今後の取組みについて

(2) 国史跡方保田東原遺跡について

(答) (1) 菊水、鹿央、山鹿の三地区を合わせた「肥後古代の森」が整備され20年が経過し、装飾古墳館の入館者は開館以来延べ90万人を数えます。

この「肥後古代の森」には、県内はもとより国内外から数百万人を超える数多くの来訪者があり、広く周知が図られているものと考えています。

菊池川流域の菊水地区には、出土遺物が国宝になっている江田船山古墳^{え た ふなやま}などがあり、地元の和水町^{なごみ}を中心に古墳祭を開催するなど利活用が図られています。鹿央地区には、現存する前方後円墳では県内最長の岩原双子塚古墳^{いわぼるふたごづか}などがあり、県立装飾古墳館を中心に古墳群の紹介や公開、体験学習や様々なイベントを行っています。山鹿地区では、全国的に有名なチブサン古墳、弁慶ヶ穴古墳^{べんけい が あな}、鍋田横穴群^{なべたよこあな}に代表される装飾古墳などがあり、山鹿市立博物館を中心に公開活用が図られています。菊鹿・菊池地区では、古代山城^{やまじろ}である鞠智城などがあり、温故創生

(1)

[裏面へ続く]

館を核とした様々なイベントなどを通して、周知や利活用を図ってきました。

なお、鞠智城については、国の特別史跡の早期指定を目指し、3月に総合調査報告書を、10月には整備報告書を刊行しました。ただ、翌月に開催された国の文化審議会までわずかな期間しかなく、学会への十分な周知が整いませんでした。引き続き、早期実現を目指して全力で取り組んで参ります。

これらの文化財の歴史的価値を更に磨き上げ、情報発信に努めることが、菊池川流域全体の文化的価値を高めることになり、「肥後古代の森」を更に活性化することにつながっていくと思います。

(2) ^{かとうだひがしぼる}方保田東原遺跡は、菊池川中流域の弥生時代後期を代表する拠点集落であり、国史跡に指定されるなど学術的に高い評価を受けています。

菊池川中流域の代表的な遺跡の中で、豊かな穀倉地帯の生産基盤を背景に、方保田東原遺跡の大集落がつくられています。この遺跡の存在は、次の時代に展開される遺跡の原点としての重要性を有しています。

今後、地元の自治体と協力して、方保田東原遺跡をはじめとした菊池川流域の遺跡群の一体的な保存と普及活用に努めていきたいと思ひます。

[文化課]